

民学産公協働サロン
「みたか都市創造サロン」
報告書



三鷹ネットワーク大学推進機構

目 次

第1	はじめに	1
第2	概要	2
第3	平成28年度のまとめ	3
第4	成果及び課題	11
第5	平成29年度に向けて	12
【参 考】		
参考1	開催実績	13
参考2	委員一覧	14

別冊 資料編

委員の発表資料

第 1 はじめに

三鷹ネットワーク大学は、平成 27 (2015) 年に開設 10 周年を迎えた。この間、民学産公の協働として、「民（市民）」「学（大学研究機関）」「産（産業界）」「公（市役所等の公共機関）」「官（国の機関）」のつながり、それぞれの持つ知的資源を最大限に活かして協働し、三鷹の未来に向けて、地域課題の解決を含む「まちづくりの新しい扉」を開く「大学研究機関との協働のカタチ」を示してきた。

一方で、今後到来する超高齢社会における医療と介護のあり方や新しい「産業化」の研究、いろいろなモノにセンサーをつけて、インターネットに繋げる IoT (Internet of Things) によってもたらされる社会変革の研究など、新しい分野での取組が求められる。

このような中、次の 10 年に向けた、民学産公の協働による新たな取組として、民学産公協働サロン「みたか都市創造サロン」を設置した。

「みたか都市創造サロン」とは、三鷹のネットワーク大学の正会員・賛助会員の学識経験者及び三鷹市職員等から構成され、三鷹の未来を複合的・立体的な視点から議論するために立ち上げられたサロンである。

本サロンでは、情報通信技術 (ICT) の進化に伴う産業構造・技術の変化や 2025 年問題などを見据えて、医療、建築、情報通信技術などの様々な分野を代表する学識経験者から、最先端の研究内容や取組状況などを学び、市の職員を交えた意見交換を行った。

なお、サロンでの意見交換から見えてきた三鷹のまちづくりにおける課題については、三鷹ネットワーク大学の正会員・賛助会員とともに、「民学産公」のネットワークを活かして、引き続き取組んでいきたい。

第2 概要

1 位置付け

三鷹ネットワーク大学は、「教育・学習機能」「研究・開発機能」「窓口・ネットワーク機能」の3つの機能を持ち、それぞれの機能ごとに10の事業を展開している。

民学産公協働サロン「みたか都市創造サロン」は、「窓口・ネットワーク機能」の『「協働サロン」事業』として取組むものである。

2 設置目的

三鷹ネットワーク大学のネットワーク機能を活かした情報交換、自由闊達な議論等を通じて、三鷹のまちづくりへの貢献を目指す。また、サロンにおける活動を通して、正会員・賛助会員相互の交流促進を図る。

3 進め方

はじめに、学識者が発表を行い、その発表を踏まえて、出席者で三鷹の未来について、複合的・立体的な視点で議論を行う。

4 出席者

学識者の発表に関連する三鷹市職員（課長職相当）。

なお、三鷹ネットワーク大学の正会員・賛助会員は、聴講者として参加。

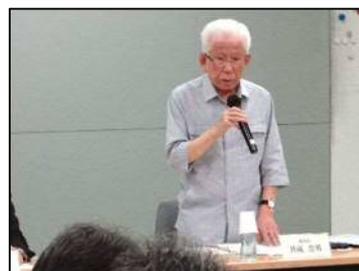
第3 平成28年度のまとめ

第1回 サロン

I 会議要旨

1 清成理事長あいさつ

今後の時代の急速な変化を見据え、各専門分野の発表に基づいた未来志向の自由闊達な議論をお願いしたい。



2 自己紹介及び研究内容等の紹介

各委員より、①略歴・プロフィール、②主な研究内容、③今後の発表概要などについて紹介



3 三鷹市の現状の説明

三鷹のまちづくりなどの現状及び今後の取組について、市企画経営課長から説明

※広報みたか（第4次三鷹市基本計画（第1次改定）・個別計画特集号）を配布。

後日、三鷹を考える論点データ集2014を配布。



4 その他

初回であることから、みたか都市創造サロンの設置目的及び今後の進め方の確認

第2回 サロン

I 各回の発表及び意見交換

いずれの回においても、はじめに学識者が最新の研究や取組等について発表を行う。発表の最後には、三鷹市との連携の可能性や三鷹のまちづくりへの問題提起などを行う。その後、出席の市職員及びオブザーバーによる様々な視点からの意見交換を行った。

第2～6回の発表概要は次のとおりである。

なお、発表内容の詳細については、「資料編」としてまとめた。

○ 第2回（前半）

『AgentSphere を使うと情報システムの何が変わるか』

成蹊大学理工学部 甲斐 宗徳 教授

開発中の自律型分散処理システム「AgentSphere」を使って、ソフトウェアサービスやネットワークサービスを構築すると、これまでのサービスと違って何が便利になるのかについて紹介。災害時などの情報インフラを強化するなど、活用の可能性やその他の展望についても合わせて考察。



○ 第2回（後半）

『UD タクシーによる狭域限定近距離運行” タクシーシェアリング運行” 方式』

(株) エディラインソリューションズ 松田 吉広 代表取締役

超高齢化が加速する都市住宅地において、新たなモビリティモデルを社会実装させ、自立生活を頑張る市民に安全安心の生活移動サービスを提供することが重要である。今回は、多様化する市民の分け隔てなく生活移動に困らないモビリティシステムとして、UD（ユニバーサルデザイン） タクシーの三鷹モデルのあり方を提案。



第3回 サロン

○ 第3回（前半）

『高齢者及び障がい者の支援技術と地域連携活動』

電気通信大学大学院情報理工学研究科 水戸 和幸 准教授

高齢者の運動機能評価、視覚障がい者への感覚代行支援、知的障がい児・者の生活及び社会自立に向けた知的支援機器の開発に関する研究について説明。また、教育協定、防災協定を締結している都立調布特別支援学校との連携活動について紹介。



○ 第3回（後半）

『人間の認知・運動機能の解明と支援に向けた情報技術の活用』

東京農工大学工学研究院先端情報科学部門 近藤 敏之 教授

加齢や疾病により、私たちの認知・運動機能は低下する。これに対する様々な治療等の多くは、経験則であり、そのメカニズムはよく分かっていない。そこで、①記憶に残りやすい運動学習の手順、②仮想現実技術による身体意識の操作などについて紹介し、認知・運動機能の回復と維持に向けた情報技術の活用法についてアイデアを提供。



第4回 サロン

○ 第4回（前半）

『がんを背景に持ち、多様な病態をもつ患者の「食」に関する情報提供』

杏林大学医学部腫瘍内科学 長島 文夫 准教授

がん患者の多くは高齢者であり、治療中のみならず、手術後のがんサバイバーが多くを占めており、多病が特徴である。2016年4月から栄養管理指導料加算の対象として、がん、嚥下障がい、低栄養が追加され、在宅医療を見据えた栄養管理の方策の充実が求められている。医療のみならず、介護との連携を模索するために、栄養関連企業等と協力して地域にわかりやすい形で情報公開を進める。



○ 第4回（後半）

『医療・健康×ICT』

NTT 情報ネットワーク総合研究所 NTT 研究企画部門

東 正造 主幹研究員

急速に進む「超高齢社会」に向けて、出生から看取りまでの全ライフステージを通して、健康・医療・介護の共通基盤を中心としたICTによる下支えが必要ではないかと考える。今回は、①ロボットやセンサデバイスを活用した介護予防、②スマートデバイスを活用した患者に医療情報を返す形態の地域医療連携、③スマートデバイス活用した病院業務改善について紹介。



第5回 サロン

○ 第5回（前半）

『植物医科学センターの設立と運営』

法政大学生命科学部応用植物科学科 西尾 健 教授

植物も、細菌やウイルスなどの微生物に侵されて病気になる。病気の予防や治療には、診断（病気の原因となる微生物がなんであるかを定める作業）が重要になる。法政大学植物医科学センターは、この植物病の診断・治療や診断技術の研修を主な業務としており、いわば植物の病院である。これまでの教育と研究の成果を社会還元する目的で設立された本センターについて紹介。



○ 第5回（後半）

『都市の木質化』

亜細亜大学都市創造学部 松岡拓公雄 教授

人間は木と共に生きてきた。木と人間は、自然界においてパートナーといっても過言ではない。燃料に道具に建築材料に使用され、人間を癒してくれる「緑」でもある。この存在の意識を高める必要がある。現在の林業は厳しい状況におかれ、国産材は外材に負けている。出口を整備し、都市を木質化していくことが、人間と都市、地域のソリューションのひとつではないかと考えている。



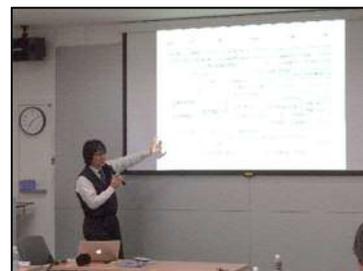
第6回 サロン

○ 第6回（前半）

『地域で、コンサルタントは何をしてくれるのか』

富士ゼロックス（株） 堀内 一永 理学博士

近年、民間企業向けに活動していたコンサルタントが、自治体の地域政策や政府の地方創生プロジェクトに関わるが多くなった。子育てや介護の支援、経済再生、環境・エネルギー施策など、あらゆる分野の相談に対応している。「専門的な知識や経験で、短期的かつ効果的な解決を、地域に最適なシステムを」などの地域からの高い要請に対するコンサルタントの実情を紹介。



○ 第6回（後半）

平成28年度の振り返り及び平成29年度に向けた意見交換

三鷹の未来を複合的・立体的な視点から議論した内容については、「意見交換における特徴的な内容」としてまとめた。

《 意見交換における特徴的な内容 》

- 1 社会課題等の解決に取り組むベンチャー企業が、活動を充実させるとともに、補助金等を獲得するためには、学生を巻き込むことが有効である可能性がある。
また、民間のみ、行政のみ、NPO法人のみでの社会課題等の解決は難しいことから、「民学産公の協働の取組」が重要であり、必要となる。
- 2 大学における研究には、様々なステークホルダーの協力や実証実験などが必要である。大学等の研究機関の研究の充実に向けて、イノベーション創出をサポートする仕組み・担い手として、「三鷹イノベーション・ファーム(仮称)」を構築することは、「市民参加と協働」の歴史と蓄積がある三鷹市において実現可能性は高いと考える。
また、実証実験などに参加することが、市民のステータスとなる文化・風土づくりに取組み、さらなる地域と大学の連携が深化することを期待する。
- 3 三鷹市との連携の可能性や三鷹のまちづくりへの問題提起の参考として、平成29年4月オープン予定の「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」の機能や概要について説明した。
特に、総合スポーツセンターに係る意見として、実証実験などの協力者は利用料を一定期間無料化するなど継続的に使用する環境づくりに取組み、行政は利用者のデータを収集する。収集したデータについて、匿名化した上で、大学などの研究機関や医療機関等に提供し、研究などに役立てるとともに、分析をお願いする。分析された内容を行政にフィードバックし、行政は健康施策に反映させるとともに、健康づくり事業などの充実につなげる。
例示ではあるが、このように、それぞれの取組がつながり、循環する仕組みが全国の標準モデルとなり、社会課題等の解決につながることを期待する。
- 4 情報過多な時代であるものの、本当に必要な先進事例や最新事例を収集することは難しい現状があると考え。一方、民間企業の経営者が必要な先進事例等を取得できれば、働き方などは変わる可能性が高いと考える。そのような経営者等をサポートする手段として、AIを利用することは有効である可能性が高い。

また、三鷹市との連携の可能性及び三鷹のまちづくりへの問題提起について、次のとおり主な内容を抜粋して掲載する。

《 主な三鷹市との連携の可能性 》

- ◇ 知的障がい児向けアプリの共同開発
- ◇ 触知案内図に関する協働研究
- ◇ VRを活用した健康増進アプリの共同開発 など



《 主な三鷹のまちづくりへの問題提起 》

- ◇ 24時間365日停止することないネットワークサービスの必要性
- ◇ 日々の生活移動に不自由する「生活移動弱者」対策の必要性
- ◇ 運動を通じた地域ごとのまちづくりの必要性 など

第4 成果及び課題

I 成果

幅広い分野の正会員・賛助会員の研究者及び事業者による、みたか都市創造サロンでの意見交換により、正会員・賛助会員相互の交流の促進につながった。

正会員・賛助会員に限り、オブザーバーとして参加できることとしたことで、専門家と交流できる機会の提供となり、サロン終了後に名刺交換している様子が目立った。

また、「主な三鷹市との連携の可能性」については、今後の協働領域の拡大の可能性であり、「主な三鷹のまちづくりへの問題提起」については、今後、さらに重要性が高まる課題等である。そのため、引き続き、三鷹のまちづくりに貢献できるよう、三鷹市を含む正会員・賛助会員との民学産公のネットワークを活かして、未来志向で検討・連携することが重要である。

その他、発表に関連する市職員が出席したことで、市職員にとっても知見が広がるとともに、課題に対して複眼的に分析できる新たな視点や考え方などのヒントの獲得につながった。研究者が市職員を通じて、市内の関係団体とマッチングできたことは、大きな成果である。

II 課題

第1回サロンにおいて、三鷹のまちづくりの現状及び今後の取組を説明したものの、各分野における具体的な課題や課題に対する要因などが説明できると、発表内容の充実や意見交換の活性化につながった可能性がある。加えて、発表に関連する事業や取組の現場（最前線）で働く職員などに出席を求め、生の声や意見を聞く機会を設けることも有効である。

今回の市職員の出席は、幹部職員中心となったが、5年、10年先を見据えた発表もあったこと及び、人的ネットワークの形成の機会であることから、若手職員の参加を促すことも重要である。

また、発表内容によっては、正会員・賛助会員に限らず、広く発表することで、例えば健康増進の一助となるなど一定の効果が見込める内容や市民の関心が高い内容があることから、一般市民を対象とした講座の開催や研究内容を展示する企画展なども有効である。

その他、オブザーバーとしての参加者が固定化してしまったことから、開催時間帯の見直しや正会員・賛助会員への積極的な周知及び声掛けなどが必要である。また、そのためには日頃からの正会員・賛助会員との顔の見える関係づくりに取り組むことが重要である。

第5 平成29年度に向けて

平成29年度以降は、平成28年度の研究発表や意見交換から見えてきた三鷹のまちづくりにおける課題について、引き続き、正会員・賛助会員とのさらなる連携を図るとともに、「民学産公」のネットワークを活かし、解決に向けた取組を進める。具体的には、協働研究事業への発展など、次に示す事項について検討の上、取組を進めていく。

1 「民学産公」協働研究事業への発展

学識経験者が実証実験や先行的モデル事業を実施する際、「民学産公」の協働で支援するとともに、経費を支援する。

2 市民向けの講座の開催

三鷹のまちづくりの課題や市民のニーズなどを踏まえて、高度な学びの機会を提供する。また、特に、大学の教授等においては、情報発信及び地域貢献の場として活用する。

3 研究発表として企画展の開催

三鷹駅南口（徒歩5分）に展示スペースとして、「天文・科学情報スペース」があることから、学識経験者の研究発表の場として活用する。

【参考 1】

民学産公協働サロン
「みたか都市創造サロン」
開催実績

	日時	検討テーマ
第 1 回	平成 28 年 7 月 20 日 (水)	◇清成理事長あいさつ ◇研究内容等の情報共有 ◇進め方の確認
第 2 回	8 月 25 日 (木)	◇甲斐 宗徳 教授の発表 『AgentSphere を使うと情報システムの何がかわるのか』 ◇松田 吉広 代表取締役の発表 『UD タクシーによる狭域限定近距離運行” タクシーシェアリング運行” 方式』
第 3 回	10 月 12 日 (水)	◇水戸 和幸 准教授の発表 『高齢者および障害者の支援技術と地域連携活動』 ◇近藤 敏之 教授の発表 『人間の認知・運動機能の解明と支援に向けた情報技術の活用』
第 4 回	12 月 14 日 (水)	◇長島 文夫 准教授の発表 『がんを背景に持ち、多様な病態をもつ患者の「食」に関する情報提供』 ◇東 正造 主幹研究員の発表 『医療・健康×ICT』
第 5 回	平成 29 年 1 月 17 日 (火)	◇西尾 健 教授の発表 『植物医科学センターの設立と運営』 ◇松岡 拓公雄 教授の発表 『都市の木質化』
第 6 回	2 月 21 日 (火)	◇堀内 一永 理学博士の発表 『地域で、コンサルタントは何をしてくれるのか』 ◇平成 28 年度の振り返り及び平成 29 年度に向けた意見交換

【参考2】

民学産公協働サロン
「みたか都市創造サロン」
委員一覧

氏名	所属
松岡拓公雄	亜細亜大学 都市創造学部 教授
長島 文夫	杏林大学 医学部腫瘍内科学 准教授
甲斐 宗徳	成蹊大学 理工学部 教授
水戸 和幸	電気通信大学大学院 情報理工学研究科 准教授
近藤 敏之	東京農工大学工学研究院 先端情報科学部門 教授
西尾 健	法政大学生命科学部 応用植物科学科 教授
東 正造	NTT 情報ネットワーク総合研究所 NTT 研究企画部門 主幹研究員
堀内 一永	富士ゼロックス（株） 理学博士
松田 吉広	（株）エディラインソリューションズ 代表取締役

主な出席者 一覧

氏名	所属
清成 忠男	三鷹ネットワーク大学推進機構 理事長
内田 治	三鷹ネットワーク大学推進機構 副理事長 (三鷹市副市長)
秋山 慎一	三鷹ネットワーク大学推進機構 理事 (三鷹市企画部調整担当部長)
大朝 摂子	三鷹市企画部都市再生担当部長
平山 寛	三鷹市企画部企画経営課長
白戸 謙一	三鷹市企画部情報推進課 番号制度担当課長
川口 真生	三鷹市健康福祉部障がい者支援課長
古園 純一	三鷹市健康福祉部高齢者支援課長
高橋 靖和	三鷹市都市整備部道路交通課 都市交通担当課長
小林 弘平	三鷹市都市整備部建築指導課長
塚本 亮	三鷹市農業委員会 事務局長

※三鷹市職員については、発表に関連する部署に出席を依頼

平成 29 年 3 月

平成 28 年度
民学産公協働サロン
「みたか都市創造サロン」
報告書

発 行 特定非営利活動法人
三鷹ネットワーク大学推進機構
三鷹市下連雀 3-24-3
三鷹駅前協同ビル 3 階